

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の参加状況

第2学年	国語	87人	社会	87人	数学	87人
	理科	87人	英語	87人		

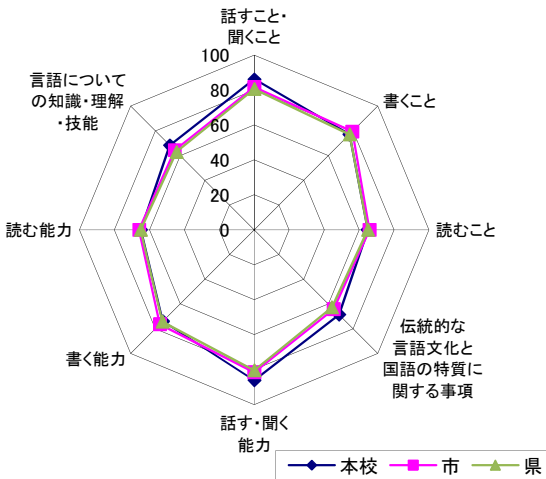
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	86.1	81.6	80.5
	書くこと	77.0	79.4	77.2
	読むこと	64.9	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.7	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	86.1	81.6	80.5
	書く能力	74.0	76.4	74.3
	読む能力	64.9	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	68.4	64.4	63.0



★指導の工夫と改善

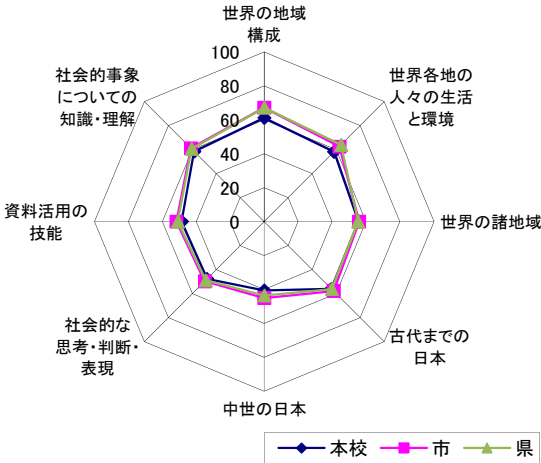
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○すべての問いにおいて市および県の平均を上回っており、特に話の内容を正確に聞き取る問題は、正答率が97.7%と高い数値を示している。 ●質問への適切な発言を考える問題は正答率が69.3%と、他の問いに比べて低くなっている。	まず「何を質問されているのか」を確認し、それから適切な答えを考える指導を行っていく。話を正確に聞き取る力を養うため、聞き取りテストを定期的の実施する。
書くこと	○指定の文字数で書くことについては、市と同等の数値を示している。また、8割以上が自分の立場を明確にして文を書くことができています。 ●三段落構成で書くことについて、市の平均を6.2ポイント下回っている。	条件を満たして文章を書くことを徹底させていく。授業にも文章を書く機会を多く設け、作文への抵抗を少なくしていく。
読むこと	○場面の展開から登場人物の様子をとらえる問いにおいて、市の平均を2.9%上回っている。その他は市及び県とほぼ同等の正答率であった。 ●新聞記事の内容から情報を読み取り記述する問題は、正答率が43.2%と低い数値を示している。	文章から必要な情報のみを抜き出し、自分で書き改める作業に慣れさせる。理解したことを自分の言葉で表現する活動を、授業に多く取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文法や語句に関する問いについては、全てにおいて市および県の正答率を上回っている。 ●漢字の書き取りの正答率が低い。「埋まる」の正答率は22.7%と、特に低い数値を示している。	現在漢字テストを定期的に行っているが、その後の復習の指導に力を入れたい。また、新出漢字を用いて熟語を作り、漢字への理解を深める活動を取り入れ、前向きに漢字の学習を行えるよう指導していく。

宇都宮市立城山中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	61.1	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	58.2	62.6	63.9
	世界の諸地域	55.6	55.9	55.3
	古代までの日本	55.9	57.8	56.2
	中世の日本	40.6	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	47.7	49.7	48.9
	資料活用 of 技能	48.7	51.8	51.0
	社会的な事象についての知識・理解	58.5	61.1	60.6



★指導の工夫と改善

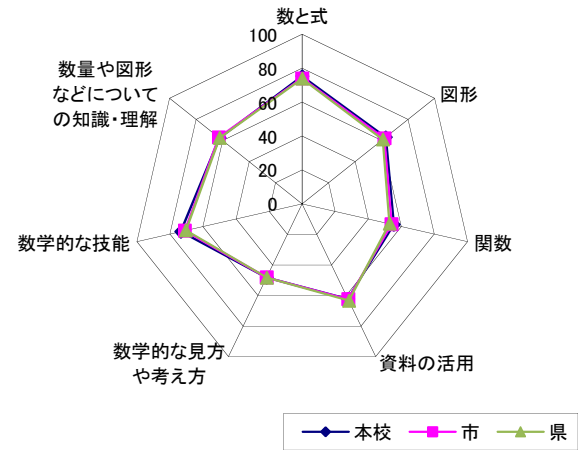
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○世界の海洋の分布や地域区分については市や県の平均を上回り、おおむね理解している。 ●世界の主な国々の名称や位置について市及び県の平均を20ポイント下回っている。	世界の諸地域の学習の際、主な国の名称と位置について地図帳を活用し、確認させる時間を設けたり、白地図に書き込ませる学習を取り入れたりして、定着を図る。
世界各地の人々の生活と環境	○世界の主な宗教の分布については8割近くの生徒が理解している。 ●世界各地の人々の住居についての理解が市や県の平均より10ポイント以上下回っている。	視聴覚教材や写真資料などを活用し、世界各地の人々生活について興味・関心を高めさせ、気候と生活の仕方は関連が深いことに気づかせるようにする。
世界の諸地域	○アジア州の気候の特色について市や県の平均を5～6ポイント上回っている。 ●アジア州の産業について資料を読み取り、文章で記述する問いに対し、正答率が31.8ポイントと低くなっている。	グラフを読みとりを丁寧に扱い、わかったことを文章で記述させる際は具体的な表現の仕方を例示して取り組みやすくする。各地方を学習する単元ごとに必ず授業に取り入れ、資料活用の技能や表現力を育成する。
古代までの日本	○政治の特色についての理解をもとに、その移り変わりについて考える問いについて、市及び県の平均を3～7ポイント上回っている。 ●年代の表し方についての正答率が30.7ポイントと低くなっている。	歴史の大きな流れをとらえさせる学習の際、小学校での学習を想起させ、興味関心を高める。年代の表し方のような基本的な事項については小テストや単元テストで確認し、定着するまで根気よく指導していく。
中世の日本	○御成敗式目についての理解ができており、市や県の平均を上回っている。 ●鎌倉幕府の衰退に関する資料を読み取る問いの正答率が26.1ポイントとかなり低くなっている。	歴史資料に触れる機会を増やし、そこから社会のようすを調べるような授業実践を各時代ごとに行う。歴史新聞やレポートなどを作成させる際、資料を活用するよう指導する。

宇都宮市立城山中学校第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	75.4	74.1	73.8
	図形	63.1	62.0	60.9
	関数	55.5	54.1	52.9
	資料の活用	62.3	62.5	63.4
観点	数学的な見方や考え方	48.3	48.2	48.3
	数学的な技能	73.4	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	62.4	62.9	62.3



★指導の工夫と改善

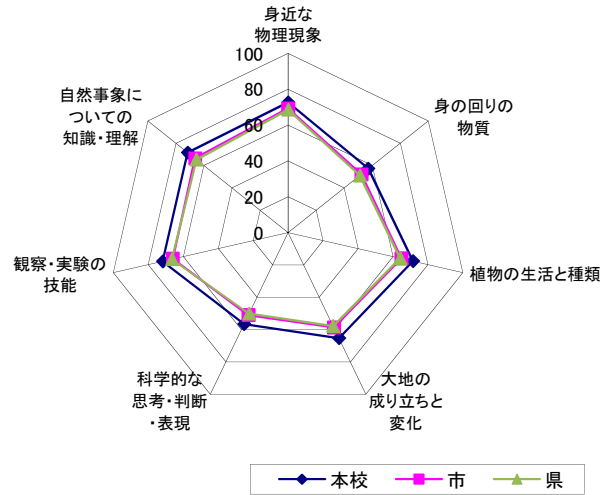
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の四則混合の計算について宇都宮市・県の平均を10ポイント上回っている。他の項目についても市や県と同等に値を示している。 ●文字式の事象を数学的に表現することを通してことがらが成り立つ理由を筋道立てて説明することについて、県や市と同じ値を示しているが、正答率は3割と低い数字である。	計算力を養うために、これまで通り基本的な問題の練習を繰り返し行い、基礎基本の定着を図る。また、発展的な文章問題についても解き方等について丁寧に指導していく、数学的な技能を育てる。
図形	○垂直二等分線の作図について市や県の平均を15ポイント上回っている。他の項目についても、市や県と同程度の数値を示している。 ●円柱の展開図から表面積を求めることについて、正答率が33%と市や県より低い値を示している。また、底面積が同じ四角柱と四角錐の体積について正しい文章を選ぶ問題でも正答率は35%と低い値を示している。	実験や観察といった活動を積極的に取り入れることで生徒の「気づき」を大切にしたい指導を行い、図形の性質や特徴の基本的なことを確実に理解させることを継続して取り組む。また、図形を動かしたり、補助線を加えたりしながら多面的に考察するとともに、その考えを発表できるような場面を授業に取り入れることで数学的な見方や考え方を育てる。
関数	○反比例の関係を表す表を選択する問題や比例のグラフを書く問題については、市や県の平均を大きく上回っている。 ●比例の関係について説明した正しい文章を選択する問題や、比例の考えを利用する問題については正答率が低くなっている。	グラフから式を求めたり、式からグラフを書いたりする練習を継続して実施することに加えて、日常の現象を関数的な見方や考え方で式やグラフに表す練習を行って数学的な技能を高めていく。文章問題の指導は、ともなって変わる2つの量に着目させながら、どのような変化をしているのかを視覚的に訴えて、理解を高めていくと共に、自分の言葉で説明する機会を増やしていく。
資料の活用	○与えられたヒストグラムから必要な情報を適切に選択し、処理する力は、市や県の平均を上回っている。 ●資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的表現を用いて説明することについて市や県の平均を大きく下回っている。	実験や観察といった活動を積極的に取り入れることで生徒の「気づき」を大切にしたい指導を行い、意欲を高めていく。小学校の学習をふまえて、既習内容を確認しながら学習を進めていく。また、資料の傾向について筋道を立てながら自分で説明する機会を多く取り入れていく。

宇都宮市立城山中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	72.7	69.2	68.6
	身の回りの物質	57.2	52.2	51.1
	植物の生活と種類	71.4	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	65.4	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	56.6	51.1	50.1
	観察・実験の技能	71.8	66.0	66.5
	自然事象についての知識・理解	71.7	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

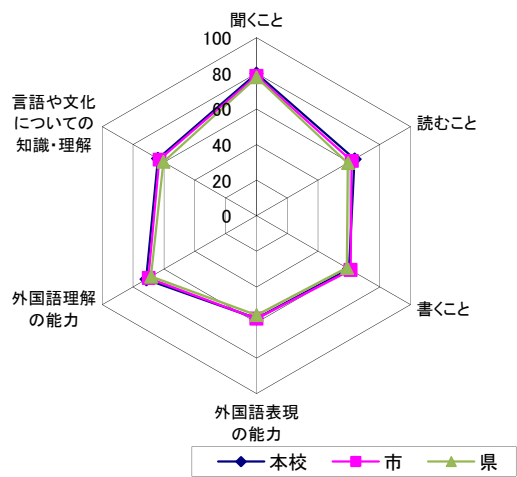
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○凸レンズによってできる実像の様子、実験結果から浮力の大きさを求めることについて、市および県の正答率を大きく上回っている。 ●反射によって起こる現象、弦の様子と音の性質との関係について、市および県の正答率を若干下回っている。	・正しく理解することが難しい内容ほど、実際の実験や観察を通して学習することを重視して指導する。 ・2つ以上の要素がともに変化する際の実験結果について、比較と組合せをしながら予想するように指導する。
身の回りの物質	○気体を発生させる方法と気体の性質、気体の特性に応じた捕集法について、市および県の正答率を15ポイント以上上回っている。 ●溶解度について、市および県の正答率を下回っている。特に、溶解度の変化と大きさと結晶の析出量との関係について理解されていない。	・日常生活の中に見られる物質について、学習内容との関連が正しく理解されるように指導する。 ・グラフの特性を正しく理解し、グラフの読み取りに慣れるように、丁寧な指導をする。
植物の生活と種類	○植物の体のつくりとはたらきについて、市および県の正答率を上回っており、概ねよく理解できている。 ○特に、花のつくり、根と茎のつくり、光合成に伴う気体の出入りについては市および県の正答率を大きく上回っている。 ○対照実験を行う理由について、市および県の正答率を上回っている。 ●植物の分類について、市および県の正答率を若干下回っている。	・目的意識をもって、自ら考えながら実験に取り組むように指導する。 ・先に学習した内容どうしを関連付けながら次の学習に進めるように、学習内容の系統性を重視して指導する。
大地の成り立ちと変化	○堆積岩の構成物質、火山岩のつくり、マグマの粘性と火山の形との関係、初期微動継続時間の推測、地層の様子や示相化石からの推測について、市および県の正答率を大きく上回っている。 ●堆積岩の特徴について、市および県の正答率を若干下回っている。	・視聴覚教材や文献資料に頼らずに、なるべく実物の観察を通して指導する。 ・どうしても実物を使えないような場合には、模擬実験やシミュレーションを効果的に使えるように指導方法を工夫する。

宇都宮市立城山中学校第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	79.9	78.7	77.8
	読むこと	63.6	61.7	59.2
	書くこと	60.0	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	57.6	57.9	55.8
	外国語理解の能力	71.5	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	64.0	63.0	60.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○おおむね県の平均を上回っている。中でも、まとまりのある英文を聞いて、必要な情報を聞き取る問題において、正確に聞き取ることができている。 ●英文を聞いて、物の位置関係を把握する問題が県の平均を下回っている。	前置詞や疑問詞などに注意して聞き取ることで、英文の大意が把握できることを改めて指導し、授業の活動の中で力をつけさせたい。
読むこと	○ グラフ資料をもとに内容を読み取る問題、長文の内容を読み取るについては、ほとんどの設問で県の平均を上回っている。 ● 選択問題の大部分においては無回答が0%なのに対して、記述問題の無回答率が20%前後と高い。	授業でのリーディング活動の設問形式を工夫して、記述式の問題に慣れさせていく。特に指示語や要約の問題などに多く触れさせることで、読み取りのポイントが押さえられるよう指導していく。
書くこと	○相手に依頼する英文、相手を誘う英文の作文については、県の平均を5ポイント以上、上回っている。特に、依頼する文においては、10ポイント以上、平均を上回っている。 ●疑問詞の含まれる英文の語順について、未定着の生徒が多い。 ●相手を誘う英文の作文は、正答率が高い反面、その無回答率は40%を超えている。	例文を多く提示し、質問文を自ら考えて書く活動を通して、疑問詞の含まれる英文の構造について理解させる。また、英作文を書く力を高めるため、TTの授業などを通して個別に指導するなど、きめ細やかに対応していく。

宇都宮市立城山中学校第2学年生徒質問紙調査

★傾向

・家で学校の宿題をしているという問いや、学校の宿題は自分のためになっているという問いに対する肯定的な回答(はい どちらかといえばはい)の割合は92ポイントと高くなっている。しかし、予習をしていると答える割合は、42.0ポイントとなり、市平均49.1 県平均46.9と比べても低くなっている。

・友達と話し合うとき、友達の意見を最後まで聞くことができているという問いに対しての肯定的な回答は96.6ポイントと高くなっているが、一方で自分の考えや意見を発表することは得意だという問いに対しては36.4ポイントとなり、市平均42.6 県平均41.1と比べても低い。

・近所の人と会ったとき、あいさつをしている 95.5ポイント 誰に対しても思いやりの心をもって接している 93.2ポイントはどちらも市や県の平均を5～6ポイント上回っている。